

曾於市移住応援ガイドブック

# ここで暮らそう そおしよう!

Let's  
Live here.  
Will do  
SOO!





曾於市は平成17年7月1日、曾於郡末吉町、大隅町、財部町の3町が合併して誕生しました。鹿児島県の大隅半島の北端、宮崎県の県境に位置します。

畜産や農業が盛んで、ゆずの作付面積は九州一。おいしい「黒牛」「黒豚」「黒ガモ」を生産する“黒”のまちです。

面積	人口	世帯数
390.14km <sup>2</sup>	33,743人	17,388世帯

※人口及び世帯数は令和4年4月1日現在



### 保育機関

認定こども園 ..... 12園  
 保育園 ..... 4園  
 (令和4年4月1日現在)



### 小中学校

小学校 ..... 19校  
 中学校 ..... 3校  
 (令和4年4月1日現在)



### 医療機関

病院 ..... 6  
 診療所 ..... 10  
 歯科医院 ..... 11  
 (令和4年4月1日現在)



### 公園

21ヶ所  
 (令和4年4月1日現在)



まちのみんながあつたかいから、  
 わたしたち、  
 あかるく元気に暮らせそお。

曾於市をひと言でいうと「ちょうどいいまち」。  
 手つかずの自然がいっぱいだけど、  
 鹿児島県の空の玄関口・霧島市と  
 宮崎県の中核都市・都城市の両方に隣接している上、  
 鹿児島市にも宮崎市にも行きやすいから  
 日常生活の利便性もしっかり。  
 自然の中にあつて両県の恩恵が得られる  
 その塩梅が、ちょうどいいんです。  
 あるがままを、あるがままに。  
 必要なものを、必要なだけ。  
 人もまちもそういう風に育ってきたから、  
 曾於市はあつたかい。  
 農業、子育て、スローライフなどなど、  
 もしもここで暮らしてみたいなら、  
 もちろんみんな大歓迎。  
 そして全力でおすすめます。  
 「ここで暮らそう、そおしよう！」と。

## INDEX

### 曾於市の概要

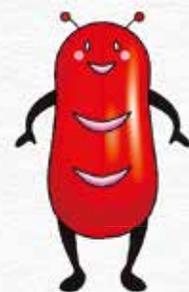
#### 移住者インタビュー

徳重 由比乃さん .....	3
荒場 正人さん・由衣さん .....	5
南竹 亜紀さん .....	7
町田 祥吾さん .....	9
持留 悠貴さん .....	11

子育て世代座談会「みんなで話そう そおしよう!」..... 13

曾於市の移住応援施策..... 15

移住までのステップ..... 17



曾於市公認キャラクター

**そお聖人**  
 Soo-shi Hagoshima



好きなことを諦めない！  
周りのサポートに感謝して  
美味しさを発信していきます

京都府から

徳重 由比乃 さん

曾於市の「ココが大好き」やはり自然が豊かなところ。森林や渓谷など、恵まれた環境を活かした施設が多いので、家族でよく出かけていました。大川原での川遊びは定番でしたね♪



与えられた環境で自分らしさを輝かす

そお生いき健康センターの近くに、徳重由比乃さんが開く『ゆいのんキッチン』があります。幼い頃からお菓子作りが好きで、結婚を機に京都から曾於市に移り住んでからも趣味として続けていました。ある時期に子供たちの体調不良が重なり、看病に専念するため家でもできる仕事を探したところ、自宅でパン教室を開ける資格に出合い

ます。「パン作りの経験は少なかつたけれどお菓子作りとの共通点もあり、好きなことを仕事にできたらと思つて」と笑う由比乃さん。資格を活用して自宅のリビングからスタートした教室は口コミで広がり、卒業生は約130名を数えるほどに。それは日々の暮らしを通じて、地域・人と絆を深めてきた証かもしれません。

たくさんのお会いから元気をもらえる地域

由比乃さんは生粋の京都人。ご主人の地元とはいえず、環境がガラリと変わって不安は無かったのでしょうか？ 回答は「特に不安はありませんでした。むしろ曾於市は住みやすいと感じています。なぜなら、人が良くてあったかい。家族だけでなく、家のサポートやパン教室で出会う人たちなど、私自身が実感したことです。仕事で人と接すると

疲れちゃう場合もあるけれど、曾於市の人のエネルギーをもらっているから仕事が終わった後に元気になるから不思議（笑）。それと幼稚園の参観日やお迎えにパパの姿を多く見かけていて、夫婦が協力して子育てに臨んでいる、または、協力ができる環境があるという印象を受けました。自然豊かな環境もいいですね。」

新しい一歩からさらなる輪を広げていく

コロナ禍で対面でのパン教室が難しくなつていく中、オンラインレッスンなど前向きに努力する由比乃さんに対して、「ご主人の心強い協力&応援もありました。2021年7月に自宅敷地内の車庫を改装して教室に。由比乃さん自身もインストラクターを卒業し、2022年9月から独自のカリキュラムを実施。プラントベースやグルテンフリー、発酵をキーワードにした体に優しいお菓子やパンの講座です。これからはスイーツのオリジナルレシピも増やしていくそう。「美味しさ、楽しさの共有でここに訪れた人同士がつながっていくと嬉しいですね」の希望通り、これからの人の輪を生み出す場所として、地域に親しまれる教室に成長していくことでしょう。



新たなステージへ進む『ゆいのんキッチン』。詳細についてはHPやInstagramでご確認を。

<https://yuionkitchen-bread.com/>



3年ほど前に由比乃さん自身が腸炎を患い、改めて体を構成する食の大切さを実感。そこから酵素や発酵の食物に再注目したそう。



手作りの甘酒や味噌、醤油(ひしお)などを用いた焼き菓子のレシピが豊富。使うことでコクや風味が増し、上品な味わいを楽しめる。



教室で作るメニューの一例。地元農家の食材とコラボした経験もあり、「今後は曾於市の特産品を用いるレシピも増やしていけたら」。

ふるたてもの  
古い建物を活かしながら  
自分たちがらしい暮らしを  
整えていく楽しみがあります

都城市から

あらばまさと  
荒場 正人  
ゆい  
由衣 さん

曾於市の「ココが」地域や人が醸す、「ゆったり、穏やか」な雰囲気が好きで、快適に暮らしています。海は無いけれど、財部町某鮮魚店のお刺身が最高に美味しいのも高ポイント！



コロナ禍で住まいに対する考え方に変化が

曾於市のお隣である都城市から、正人さんの転職を機に移住してきた荒場家。当初は市営団地で暮らしていましたが、一年以上かけた新居探しの結果、庭付き一戸建ての購入を実現しました。大きなきっかけとなったのは、新型コロナウイルス感染症の流行です。「屋外で遊ぶことが難しくなり、家の中で過ごす子供たちの様子を見て、わが家の

庭であればのびのび遊ばせてあげられると思って」と口を揃える正人さんと由衣さん。「予算内で条件に合った家となると、新築より中古物件が現実的。最初は自力で空き家を見つける努力をしていました。でもやはり難しくして（笑）。不動産屋さんに相談したところ、曾於市の空き家バンクからいくつかの物件を紹介されたんです」。

「空き家バンク制度」で出合ったわが家

曾於市の「空き家バンク制度」では、スムーズなマッチングを進めるために宅建協会が仲介に入っています。曾於市のホームページに掲載されている情報からアプローチできるのですが、荒場さんのように不動産屋を通じて空き家バンク物件と出会うのも一つの方法。現在の住まいは仕事や育児といった生活面のしやすさ何より内覧した時の「ここだー」

という直感が決め手になったそう。「築23年（購入時）と古すぎない建物と、菜園のある広い庭も魅力でした」。重厚感のある平屋造りで、部屋数も十分。これからどんどん成長していく3人姉妹のためのスペースも確保されています。また、自分たちのライフスタイルに合わせて設備や間取りのリフォームも実践しました。

家族一丸となってリフォームを實踐中

以前とガラリと印象が変わったのはLDK部分。天井板を取り、梁を現して開放感を高めました。リビングの壁は、漆喰に墨汁を混ぜて好みの色合いを調合。落ち着きのあるグレーが空間のステキなアクセントになっています。リフォームに関する曾於市の補助金制度を活用しながら、専門業者だけに頼らず家族全員でわが家づくりに参加してい

るのも荒場家の特徴。壁紙を貼ったり、漆喰壁を塗ったりと、2ヶ月かけて整えたと言います。ただ、まだ完成ではなく、改修の真っ最中なのかとか。「いま着手している廊下は子供たちも漆喰塗りに参加。私たちが楽しい家にするともに、住み継いだ建物と土地を大事にして、家族が仲良く、楽しく暮らしていきたいですね」。



趣きのある外観は補修のみにとどめ、リビングと庭を緩やかにつなぐデッキを後付け。屋外スペースでの食事や遊びも増えたそう。



経年した木の質感が味わい深い玄関ホール。親子で改修中の中廊下を進んだ突き当たりの壁のクロスは由衣さんが選んで貼ったもの。



敷地内の菜園では複数の野菜を栽培。みんなで育てて収穫を行い、美味しく食べるという、おうち時間の新たな楽しみが生まれた。



5人家族の荒場家。正人さんはケアマネ経験を活かし、2022年に福祉事業『繋ぐ工房』を設立。地域や人への貢献に意欲を注いでいる。

丹精込めて育てた作物だから  
なるべく無駄なく美味しく  
食べてほしいんです

北九州市から

みなみ たけ あ き  
**南竹 亜紀** さん

曾於市の「自然がとても身近なココが」好き  
と。霧島連山を望む自宅は『悠久の森』も近く、四季折々の景色を楽しめます。また、水道水の美味しさにもびっぴりしました！



大自然も食も自分たちにとって魅力的な場所

国道10号から車で約5分。曾於市末吉町深川に、野菜を原料にしたジェラートショップ『五粒に種』があります。オープンは2021年2月。店主は北九州市出身の南竹亜紀さんです。結婚を機にご主人の勤務先である鹿屋市へ。曾於市へは買い物などで訪れ、その度に野菜の鮮度や美味しさに感動していたと言います。「子どもが1歳を迎え、

今後の育児環境を考えたときに、曾於市の豊かな自然と食、交通の利便性を含めて理想的な地域だなと思って移住を決めました。家族で引っ越すとすると住居探しも大変だと想像するのですが、「曾於市が移住者向けに用意している地域振興住宅に入居。抽選制ですが、移住希望なら申し込む価値はありますよ！」。

「もったいない」の種から芽生えた起業の思い

移住後に仕事を探さず、農業人材を育成する職業訓練に興味を持った亜紀さん。「野菜が好きだし、曾於市で暮らしてから農業が身近に感じられたのがきっかけ。就農を目指して学んだものの、実際の農業とのギャップが大きくてなかなか大変でした。そんな時に協力してくれたのが、職業訓練同期生の持留さん。共通の思いのもと、農作

業やジェラートショップなど様々な場面において心強いパートナーです。亜紀さんが農業を始めてから気づいたのが、廃棄される農作物の多さ。大きさが規格外だったり、虫食いがあつたりすると店舗の商品としては卸せません。「もったいない！何か有効活用できないか」と試行錯誤してたどり着いたのがジェラートだったんです」。

独自のジェラート作りで6次化を実現

ジェラートなら元のカタチやキズなども関係なし。しかも野菜で作るという付加価値があります。ただし、何でもいいわけではなく、向き不向きがあるとか。見極めのための試作&試食を繰り返し、定番と季節限定のメニューが完成しました。野菜の持ち味を大切にしたい。野菜の持ち味を大切にしたい。味しさに、県外から足を運ぶファンもいるほど。「ジェラートをきつかけ

に規格外野菜や農業に目を向ける人がいればうれしいですね。今後は農業体験なども企画したい」と意欲的です。ところで、店名の『五粒に種』ってどんな意味なのか気になりますか？耳慣れない言葉ですが、農業のことわざである『三粒に種』に由来。自然との共生を感じさせるその意味合いは、ぜひ現地です亜紀さんに尋ねてみてください。



『五粒に種』の店舗は道路から見えにくいので、来店の際はのぼり旗を目印に。営業時間などはインスタグラムやFacebookで発信中。



取材時(8月)に提供されていた「きなこ」「にんじん」「抹茶」「きゅうり」(右前から時計回り)。メニューによっては岩塩や胡椒をかけても美味♪



廃棄対象の農産物を有効活用する取り組みは、フードロスの解消や地域貢献につながる。私たちも選んで食べることで協力が可能。



幼稚園時代の夢が「アイスクリーム屋」だった亜紀さん。作業療法士の経歴があり、「野望は商品開発ができる就労支援」と大きい！

# 地域や人と関わることで、 どんどん輪が広がることが、 不思議でおもしろいんです

始良市から

まちだ しょうご  
**町田 祥吾** さん

曾於市の「わが家の近くに溝ノココが」が家の近くに溝ノ口川の『三連轟の滝』好きがあるのですが、夏でも涼やかで扇風機だけで過ごせるほど。その代わり、冬はこたつとストーブの二刀流ですが(笑)。



## 農業人材育成科受講が移住のきっかけに

財部町で暮らす町田祥吾さん。移住前から農業に興味を持ち、同行で行われている農業人材育成科(職業訓練プログラム)の受講を機に、縁もゆかりもない土地に飛び込みました。「申込み当時は曾於市がどこにあるかさえ知らなくて(笑)。でも知らないからこそ発見や驚きが多く、毎日が新鮮。講座の同期生とは今でも連絡を取り合っ

たり、一緒に米作りをしたりしています。住む家を決める際も講師の方に相談し、DIY可能な空き家を紹介してもらったそうです。今はパートナーと一緒に、少しずつ居心地のいい場所に整えている最中。「今は納屋にあった古い竈を再生させ、農作業終わりにみんなワイワイできるカフェのようなスペースにするつもりです」。

## 育てた縁がライフワークにつながっていく

農業人材育成科を卒業後は、同期生4人で無農薬での米作りをスタート。初年度は雑草の成長の早さや手間の多さに四苦八苦しながらも、想定以上の収穫が叶ったとい

います。畑では野菜を栽培するなど「まずは自分たちが食べる分を育てるのが目標。土壌と作物の関係をもっと学んで、ある果物の栽培にも調整したいですね」と農業に意欲

## 積極的に関わって居心地のいい環境をつくる

新天地で暮らすことについて尋ねると、「期待よりも、これからどうなるんだろう、という漠然とした不安が強かったです」と当時を振り返る町田さん。曾於市の豊かな自然に包まれる環境で土や人の温もりに触れる中で、ゆっくりと自分らしい生き方を見つけているところなのだとか。「新参者の私にも近い距離感で接してもらえたり、保守的

な人も話すことで打ち解けられました。暮らして感じたのは、やはり人の温かさ。おらかな環境にいると人柄もおおらかになるのかもしれない(笑)。移住を考えている人にアドバイスできるのは、積極的に「コミュニケーションを取ること。そういった点で曾於市は、懐深く受け止めてくれる人たちが多くいると感じています」。



宮崎県都市という比較的大きな街と隣接する曾於市。「帰りに道にイノシシやシカと出会うのに買物も不自由しないのは魅力的」。



『たからべ森の学校』では校舎を活用した宿泊体験が可能。お客様を迎える準備や接客対応など、さまざまな役割をこなす。



町田さんが仲間と一緒に丹精込めて手入れを行う2反の田んぼは、のどかな風景の中にある。今年もおいしい米が収穫できそうだ。



集落支援では地域特産の蕎麦を用い、オーナー制度やイベントなどを企画・実施。「コミュニティが自立できるよう注力したい」と町田さん。

# 農業で地域の魅力を広めたい！ まだまだ力不足だけど できることから始めています

曾於市へUターン

もち じめ ゆう き  
**持留 悠貴**

曾於市の「ココが」地元出身のせいなのか、好きな部分や自  
好き「慢」できるところが思いつきません。だからこそ、曾於市をア  
ピールできる場所を自分たちで作りたいとも考えています。



## 生まれ育った地元で自分の可能性を発見

曾於市で生まれ育ち、就職で地元を離れた持留悠貴さん。県外でサラリーマンとして働いていた頃は、帰省する度に町の活気が減っているように寂しさを感じていたと言います。「長男なので、いつかは地元に戻るつもりでした。ただ、町の様子や両親の年齢を考えたとき、自分が歳を取ってからはやりたいことが思うようにできないかもしれ

ない。そんな思いが背中を押したんです」。その時の悠貴さんは32歳。福岡から実家へ戻り、自分が持っているもので何ができるかを模索します。兼業農家のお父さんを手伝った経験から、就農の道を決め、曾於市の職業訓練を受講。卒業後の令和2年、化学肥料を使わず有機系肥料で育てる『悠紀農園』を開業しました。

## 買い手との触れ合いがモチベーションに

『悠紀農園』の現在の規模は、露地栽培とビニルハウスを合わせて6反(約6000㎡)ほど。「1年目は色々な作物にチャレンジして、小売店に卸しました。どの時期にどんな野菜が売れるのか、選んでもらいやすい価格設定などを探求。2年目からは品種を絞り、収穫量を増やすスタイルに。農園の野菜は末吉町の道の駅や都城市の直売所

で販売しています。作物を育てるだけでなく、事業として成り立たせるには、販売まで見据えた計画や戦略が必要。「今の市場では、有栽培の付加価値を販売価格に反映できないのが辛いところ。それでも野菜の搬入時にお客様と直接話したり、うちの野菜をカゴに入れる様子を見かけたりするとうれしいし、やりがいを感じます」。

現在は1反の畑とビニルハウスが3棟。楽しみながら農業体験ができる観光農園の計画もある。情報は『悠紀農園』Instagramにて。



就農希望者へのアドバイスとして、「専門を目指すなら手ぶらでは無謀。資金や技術などの地固めと勉強を続ける努力、覚悟が必要」。



職業訓練で教わるのは、農業の基本的な部分。開業してからは経験豊富な父親を師匠として、様々な研究・実践を繰り返している。



作業に欠かせない相棒の一つ。「自分で考えて実践したことで収入を得る達成感は想像以上。ただし大変さも想像以上です(笑)」。



## 想いを共有する仲間とさらなる夢へ挑む

悠貴さんと7〜8ページで紹介している南竹亜紀さんはビジネスパートナーの間柄。互いに個人事業者ではありますが、畑を共有して野菜を育てる中で「規格外野菜を少なくしたい」との想いを強くし、ジェラートの原料として使用する6次化を叶えました。農園では量産作物とは別に、ちょっとミニアツクな野菜も育てており、それがジェラート

の新メニューになることもあるとか。就農3年目を迎えた自身の成長を尋ねると、「成長…できていません(笑)。今は一人前の農家になることが目標。そしてジェラートショップをマチナカに進出させ、野菜直売も行うマルシェに育てていけたら」。いつか曾於市に、たくさん笑顔が集うステキな場所ができそうです。

# みんなで はな 話そう そおしよう

曾於市へ移住してきた未就学児のママたちに聞いた、地域の子育て環境。実際に暮らしてみて感じたことをざっばらんに話してもらったところ、手厚い支援に支えられ、親も伸び伸びと育児に臨む様子が伝わってきました。



**YMさん**(財部町在住)  
育児中は気付きにくいけれど、時間がゆったり流れる町だと感じています。人も環境も良質なんですよね。

**NSさん**(大隅町在住)  
距離感の近さに最初は戸惑ったけれど、今はそれが心地いいですね。いつか恩返しできたらと思います。

**SMさん**(末吉町在住)  
肉も野菜も美味しくてコスパが抜群。お裾分け文化が残っているのもステキ。もう転動したくありません！

まずは、曾於市へ移住したきっかけを教えてください。

**NSさん** 私の出身地は宮崎県。以前は鹿児島市で暮らしていました。夫の地元である曾於市へ、移住5年目です。

**SMさん** 転勤族のため、結婚してから各地での暮らしを体験中です。曾於市在住2年目です。

**YMさん** 結婚をきっかけに、隣の鹿屋市から引っ越してきました。もう6年目になります。

育児を行う環境として魅力的なところはどこですか？

**全員** 末吉・財部・大隅の各町に『子育て支援センター』が備わっているところ！

**NSさん** 平日は毎日開放されているので、都合のいい時間に遊びに訪れる感じです。鹿児島市でも同様の施設を利用していましたが、規模が大きい分だけ利用者も多く、なかなか顔見知りの親子を作れないもどかしさがありました。

**YMさん** その点、こちだとすぐ顔見知りになれるますよね(笑)。2019年からは3町それぞれに『子育て支援センター』が設置。私は財部町在住なので、以前は末吉町の施設に行くまでの車内で子ども

もが眠ってしまったり、別なことに興味が移ってしまったり。だから近所に開設されてますます助かってます。

**SMさん** それぞれ個性があつて、住む町以外の施設も利用可能なところも便利。育児に関するいろんな情報を集約・発信する場所なので、保育園探しの相談もしちゃいました。

『子育て支援センター』をどう活用しているのでしょうか？

**SMさん** 曜日によって様々な活動が実施されていて、子どもにいろんな体験をさせられるのはうれしいポイント。常駐の先生たちがみんな優しく、全力で一緒に遊んでくれる姿が頼もしいです(笑)。

**NSさん** 先生たちは子どもの顔と名前をきちんと把握されていて、声かけも丁寧。小規模ならではのきめ細やかさを感じます。

**YMさん** 確かに。育児相談ほどではない心配ごとやグチにも共感してもらえます。子どもが伸び伸び遊べるのももちろん、ママにとって気持ちや軽くしてもらえる場所でもあるのかな、と。

日常生活の中で、育児環境について気づいたことなどありますか？

うれしいですね！  
**SMさん** 支援制度の一つに、0歳～高校卒業年齢までを対象にした『子ども医療費助成制度』がありますよね。高校卒業まで医療費が無料！すごくありがたいです！

**YMさん** 私は自宅を建てる際に商品券+現金を支給される、住宅取得祝い金等支給制度”を活用。しっかり使わせてもらいました(笑)。

**SMさん・NSさん** 競争率が高そうだけど、ぜひチャレンジしたい企画。子どもたちも喜んでくれるはず！

曾於市の育児環境の魅力、とてもよくわかりました。一方で「ここが良くなれば」という意見は？

**NSさん** 病院が少なく、診療科も限られているところ。選択肢が少なく、緊急時の対応が難しい場合もあると聞きました。小児科以外の診療科が増えれば、遠方の病院に通う負担も少なくなるのでは。

**SMさん** 医療関係で言えば、第2子の妊娠中に移住してきた私は産婦人科探しに苦心した経験アリ。最終的に子育て支援センターで情報収集しましたよ。  
**YMさん** さすがは子育て支援センター。有能ですね(笑)



# 子育て

妊娠・出産・子育てに関するさまざまなサポートがあります。

## 出産祝い金

曾於市では、第1子・第2子を出産した際に1人につき1万円、第3子以降を出産した際に、1人につき10万円支給しています。

## 子ども医療費助成

18歳までの子どもを対象に、病気などでかかった医療費自己負担分を曾於市が全額助成します。

## 24時間健康・医療相談サービス

医療や育児、悩み事の相談に、専門のスタッフが24時間体制で電話対応します。電話代・相談料は無料です。

## 給食費の補助

市内小中学校生徒の給食費のおよそ1/3を補助しています。月に小学校1,400円・中学校1,600円の補助があります。

## 放課後児童クラブ

保護者が仕事により、昼間家庭にいない小学生を預かる児童クラブを運営委託し、児童の健全育成を図っています。

## 子育て支援センター

市内3か所にあり、子育て中の育児相談や地域に関する情報交換の場を提供しています。また、毎週さまざまな催し、一時預かりなど行い、楽しく子育てができるようお手伝いします。

# 曾於市の!

# 移住 応援 施策

## 教育

保育園から高校まで、地域ぐるみのサポートがあります。

## 保育園・こども園・各学校

曾於市では、自然あふれる豊かな環境で、保育園・幼稚園・各学校がそれぞれ特色ある教育を行っています。地域との交流も多く、のびのびとした子ども教育が魅力です。

## 学校活動支援員配置

必要に応じ、小学校に学校活動支援員を配置します。小規模・複式校では、主に複式指導の充実に向けた支援を、大規模校では、複数の教師が授業を行うT・T指導や個別指導を行います。一人ひとりの実態に即したきめ細やかな指導が特長です。

## そおっ子の学力向上プラン

子どもたちの学力を正確に把握し、効果的な指導をするために、学力検査の実施や研究公開の補助を行っています。また、子どもたちの学習意欲を高めるために、英検・漢検などの各種検定料の補助を行っています。

## その他

普段できない体験を子どもたちにしてもらう「青少年リーダー研修」の実施、市内から遠距離通学する児童生徒への「遠距離通学補助制度」や地元唯一の高校に通う生徒に対して資格取得費の補助などといった、教育についても様々なサポートがあります。

## 仕事

新規就農の補助金や店舗新築、起業等のサポートがあります。

## 店舗新築・改築の補助

曾於市の活性化と雇用の創出、後継者育成のため、店舗新築や既存店舗若しくは既存建物の改築工事費を一部補助しています。

## 新規就農者支援

これからの農業を担い、支える農業高校生、新規就農者や農業後継者の育成支援を行っています。曾於市には新規就農者向けの職業訓練校があり、農業実習や座学でしっかりと学ぶこともできます。

## 新規就農者支援対策事業補助金

- 月額5万円～15万円(2年間)

## 仕事編

起業したい方、個人事業主の方などを対象に、起業相談や事業経営、商品開発などの様々なお困りごとに対し、専門の相談員が対応し支援する「起業創業相談事業」を実施しています。

また、テレワーク・起業創業施設「シゴトパ3ラボ」を開設し、新しい働き方を応援しています。

# 暮らし

曾於市での移住体験プログラムや住宅のサポートがあります。

## オーダーメイド型移住体験ツアー

移住希望者からヒアリングを行い、希望者のニーズに沿ったツアーを体験ができます。

## 住宅取得祝い金制度 + 市有地活用補助制度

- 市内に家を新築・購入した場合にお祝い金の交付があります。(転入者加算あり)
- 区画整理地や格安分譲地の販売もあり、購入費の一部を補助しております。(市有地活用補助金)

## 空き家バンク

曾於市公式サイトには、空き家情報を提供する「空き家バンク」を掲載しています。また、改修費用の30%(上限50万円)を補助する空き家バンクリフォーム補助制度もあります。

## その他

曾於市外からの移住者に新築一戸建てを貸与する地域振興住宅制度や、住宅リフォーム補助などもあります。※地域振興住宅については申込期間や要件等があります。

# エンジョイそおライフ!





# 曾於市へ!

## 移住までのステップ

### GO! ステップ1

移住の目的を考え  
ご家族で検討する

自分や家族が何のために移住するのかを再確認しましょう。どのような環境で、どのような生活を送りたいと思っているのか、譲れるところと譲れないところは何か、それらを具体的に考えることが重要です。



### ステップ2

現実的な条件を  
リストアップする

移住の目的を再確認したら、自分なりの条件をリストアップしましょう。「子どもを預けられる保育園が近くにある」「家賃は〇万円まで」など、判断の基準となる事項を列挙してみるとよいでしょう。



### ステップ3

移住先の情報を  
集める、相談する

住みたい地域についての情報を収集しましょう。住まいや仕事、交通アクセスや自然環境、医療機関や教育環境など、知っておきたい情報がたくさんあるはずですよ。

インターネット等で情報収集するのも有益ですが、東京などで開催している移住検討者向けの相談会もぜひ活用してみてください。また、鹿児島県が東京都に設置している『かごしま「よかとこ」暮らし支援センター』もご活用ください。



### ステップ4

曾於市へ来てみて  
現地を下見する

収集した情報を自分で確認し、その土地の雰囲気をつかんでみるためにも、現地を下見してみましょう。曾於市でも移住体験プログラムを提供しています。ぜひ、活用してみてください。



### ステップ5

仕事を  
探す

移住前に移住先での仕事を探しましょう。移住後に仕事を探す場合は、当面の生活費を準備しておきましょう。起業を考えている場合は、情報収集を綿密に行いましょう。

■ハローワーク大隅  
TEL: 099-482-1265



曾於市役所 企画政策課 定住推進係  
TEL: 0986-76-8802(直通)

移住を決めたら、まずはいったん落ちついて、目的や生活の手段などをもう一度ふり返り、じっくりと考えてみましょう。その際に生まれた疑問や質問は、ぜひ曾於市までお気軽におたずねください。

### ステップ6

住まいを  
見つける

自分の条件にあった住まいを探しましょう。選択に迷ったら、移住の目的を再確認して、自分がリストアップした条件に立ち戻ってみるのもよいでしょう。

### ステップ7

曾於市へ移住して  
地域に溶け込む

移住先が決まったら、引越しや学校の転入手続きなどの段取りを進めて行きましょう。地元の行事などに積極的に参加することで、地域のルールを知ったり、地域の人々とのつながりが生まれ、それが新しい生活の基盤にもなるかも。

いよいよ、そ暮らしスタート! 地域に溶け込みましょう。

SOO-LIFE START!

#### 曾於市へのアクセス

飛行機	●東京(羽田・成田) → 鹿児島 ..... 約2時間	【お問い合わせ先】 鹿児島空港ビルディング(株) 観光総合案内所 TEL: 0995-58-4133
	●名古屋(中部国際) → 鹿児島 ..... 約1時間20分	
	●大阪(伊丹・関空) → 鹿児島 ..... 約1時間10分	
	●福岡 → 鹿児島 ..... 約50分	
新幹線・電車	●新大阪 → 鹿児島中央 → 財部駅 ..... 約5時間30分	【お問い合わせ先】 JR九州案内センター TEL: 050-3786-1717
	●広島 → 鹿児島中央 → 財部駅 ..... 約4時間20分	
	●博多 → 鹿児島中央 → 財部駅 ..... 約3時間10分	
	●熊本 → 鹿児島中央 → 財部駅 ..... 約2時間30分	
	●宮崎 → 西都城駅 → 財部駅 ..... 約1時間30分	
車 (曾於市中心部までの時間)	●福岡市から ..... 約3時間30分	【お問い合わせ先】 (株)フェリーさんふらわあ 志布志支店 TEL: 099-473-8185
	●熊本市から ..... 約2時間30分	
	●宮崎市から ..... 約1時間00分	
	●鹿児島市から ..... 約1時間10分	
	●鹿児島空港から ..... 約50分	
フェリー (さんふらわあ)	●大阪 → 志布志 ..... 約14時間	

※所要時間は、平常期におけるおよその時間の合計です。途中での乗り継ぎ等の時間は含んでおりません。 ※このアクセスでは、主なルートのみを掲載しており、全てのルートに掲載しているわけではありません。 ※交通機関の路線及び所要時間が変わる場合もあります。 ※このデータは、2022年10月現在のものです。

わたしたちがサポートします!



移住に関する  
お問い合わせ

曾於市役所

企画政策課

定住推進係

TEL: 0986-76-8802(直通) FAX: 0986-76-1122

<https://soo-ijyu.jp>



 鹿児島県 曾於市

〒899-8692 鹿児島県曾於市末吉町ニ之方1980番地  
<https://www.city.soo.kagoshima.jp>

